

# 社会貢献活動

# 安全・安心、快適



まちや住まいの安全・安心と快適性を確保します **環境配慮方針1-4**

## 取組方針

健康や衛生に関わる住まいの安全・安心や快適性を確保するとともに、まちについても、災害時の安全性を高め、地域の歴史や周辺地区との調和に配慮した美しく快適なまちづくりを進め、住むことに誇りが持てるような質の高い都市環境の形成をめざします。



## 社会貢献活動 安全・安心、快適

# まちや住まいの安全・安心と 快適性の確保に向けた取組

## 良好な都市景観の形成

### 美しい都市景観の形成

まちづくりに参加する方々と協働して、一つのまとまりある景観をつくるため、地区の特色を活かした景観形成の規範となる「景観デザインガイドライン」を作成し、美しい都市景観の形成に努めています。

長期にわたって利用できる質の高い都市基盤を、社会全体の資産として継承していくことが求められている今、建築物を含めたまちなみ全体が、愛着と誇りの持てる美しい景観を備えたものであるべきだと考え、それにふさわしい住まいを提案しています。

2021年度は、コモレ四谷（東京都新宿区）等の21団地・地区等において、景観や環境などに関する賞を受賞しました。

### 2021年度の景観・環境などの主な受賞内容

賞の名称	団地・地区等の名称
日本都市計画学会賞 計画設計賞	コモレ四谷（東京都新宿区）
都市住宅学会賞・業績賞 学会長賞	千里ニュータウン（大阪府吹田市、豊中市）
第3回復興設計賞	川原川・川原川公園（岩手県陸前高田市）

## CASE STUDY

### ▶ 2021年度の景観や環境などに関連する主な受賞内容を地区ごとにご紹介

#### コモレ四谷（東京都新宿区）

**主な2021年度受賞** ●日本都市計画学会賞「計画設計賞」  
（公益社団法人日本都市計画学会）

講評（一部抜粋）

市街地再開発事業を用いて、国有地の有効利用、地域の防災性の向上、駅前のにぎわい交流拠点の形成を行った事業であり、以下の点で優れている。

1. まちづくり協議会発足以来15年以上を要し、170者を超える地権者の意向を調整しつつ、社会的なニーズに即し事業を完遂したこと。
2. 「みどりと都市の立体的な融合」というコンセプトの下、広場や立体的な緑化等ボリューム感のある緑地空間を確保、防災拠点としても施設整備を行ったこと。
3. 新たな公民連携手法として、公募により民間事業者が都市計画決定段階から参画する「事業パートナー制度」を創設したこと。
4. 設計やリーシング、管理運営計画において、民間事業者のノウハウを活用したこと。

▼詳しく知りたい方はこちら  
コモレ四谷  
[https://www.ur-net.go.jp/rd\\_portal/urbandesign/project/saikaihatsu/komoreyotsuya.html](https://www.ur-net.go.jp/rd_portal/urbandesign/project/saikaihatsu/komoreyotsuya.html)



コモレ四谷の全景



コモレビの広場

#### 千里ニュータウンにおける団地再生事業（大阪府吹田市、豊中市）

**主な2021年度受賞** ●都市住宅学会賞・業績賞「学会長賞」  
（公益社団法人都市住宅学会）

講評（一部抜粋）

大規模団地の高齢化への対応として、本事業は、一部建て替えという方法を提起している。この方法であれば、現在のコミュニティを維持しつつ、漸進的に新たな人口を受容でき、将来の不確定要素にも柔軟に対応できる。大規模団地の再編手法として、また今後の建て替えによるまちづくりを考える上でも、示唆に富み、発展が期待される。

▼詳しく知りたい方はこちら  
千里ニュータウンの団地再生事業が都市住宅学会賞を受賞  
[https://www.ur-net.go.jp/news/20210622\\_nishinohon\\_senri.html](https://www.ur-net.go.jp/news/20210622_nishinohon_senri.html)



千里グリーンヒルズ東町



千里グリーンヒルズ竹見台の鳥瞰写真

#### 川原川・川原川公園（岩手県陸前高田市）

**主な2021年度受賞** ●第3回復興設計賞（復興デザイン会議）

講評（一部抜粋）

川原川公園を横断する小規模な橋梁群は、見上げの視点からも丁寧にデザインされ、くぐり抜ける楽しさを生み出しながら、震災前の橋の位置に設置された潜り橋と共に公園の遊歩道のシーケンスを豊かなものになっている。

▼詳しく知りたい方はこちら  
川原川・川原川公園  
[https://www.ur-net.go.jp/rd\\_portal/urbandesign/event/awards/hukkohsekeishoh.html](https://www.ur-net.go.jp/rd_portal/urbandesign/event/awards/hukkohsekeishoh.html)



整備された川原川公園



斜面を滑って遊ぶ子どもたち

## 第2回グリーンインフラ大賞 受賞内容のご紹介

緩和策

適応策

### 国土交通大臣賞

#### 生活空間部門

##### コンフォール松原

受賞者 UR都市機構東日本賃貸住宅本部、草加市、(株)プレスメディア、(株)アーバンデザインコンサルタント、(株)ポリテック・エイディディ

隣接する松原団地記念公園と合わせて、地域の環境資産を活かしたみどりのネットワーク形成や多様化するニーズに対応した魅力的な住まいづくりなどを目的に、持続可能で活力のあるまちづくりを進めています。また、雨水流出抑制機能を持つレインガーデン・修景池を整備するなど、自然の多様な機能を活用した浸水被害対策も実施しています。



保存樹木に囲まれたB2街区の緑道



保存樹木を中心とした広場



生きもの観察会の風景



遊具で遊ぶ親子の傍らで貸農園で作業する住民。この場で自然な交流が生まれる

#### 講評

住環境を支える防災・減災的な観点に加え、ライフスタイルという観点から、植栽やオープンスペースの工夫により、様々な主体が係り育てるグリーンインフラの取組として評価します。特に、維持管理といった視点ではなく、育て楽しむことができるランドスケープデザインが高く評価できます。隣接する大学や民間事業者との取組や、地域におけるさらなるグリーンインフラの取組に向けた普及啓発に期待します。



▼詳しく知りたい方はこちら  
[Green Bind] みどりが束ねる暮らしとまち (コンフォール松原・松原団地記念公園)  
<https://youtu.be/5vlvXvKq7hohtml>

### グリーンインフラ大賞とは

国土交通省は、2020年度からグリーンインフラに関する優れた取組を防災・減災、生活空間、都市空間、生態系保全の4部門に分けて表彰しています。グリーンインフラに関する優れた取組事例を表彰することにより、広範な主体の積極的な参画と連携を促進し、グリーンインフラの社会実装を推進することを目的としています。

「第2回グリーンインフラ大賞」において、国土交通省が設立したグリーンインフラ官民連携プラットフォーム※会員による投票により、下記を受賞しました。

※多様な主体の積極的な参画及び官民連携によりグリーンインフラを推進することを目的に、2020年3月19日に設立され、会員は都道府県・市区町村、関係府省庁、民間企業・学術団体、個人などから構成されています

### 優秀賞

#### 防災・減災部門、都市空間部門

##### IKE・SUNPARK

受賞者 豊島区、UR都市機構東日本都市再生本部、日比谷アメニス・都市計画研究所・株木建設・NTTアーバンバリューサポートコンソーシアム

豊島区の防災拠点及び豊島区が進める「4つの公園を核としたまちづくり」の一翼を担う公園として、平常時と災害時の2つのフェーズにおいて有効となる、緑空間の持つ多機能性を最大限に引き出す公園整備と、人、モノ、公園、まちを育てる持続可能な仕組みづくりにより、地域のにぎわいと防災力を高め、魅力あふれるまちづくりを進めました。



公園の中を斜めに伸びる遊歩道



広場とカフェをつなぐウッドデッキ



指定管理者による利用者参加型コミュニティガーデン活動



4つの公園を結んで走る「IKE BUS」

#### 講評

官民連携による公園整備・管理運営を通じて、木造密集市街地における防災性の向上と、賑わいの創出という地域の複合的な課題解決を実現している事例である。平常時は憩いの場となり災害時には避難場所・ヘリポートともなる芝生広場、散策ルートとしての活用を想定した防火樹林帯など、緑空間の多機能性を活用した取組が行われている。さらに、地域と連携した公園利用の仕組みづくり、まちづくりの核となる4公園の回遊性確保など、公園内にとどまらない面的な取組が行われている点が高く評価できます。



▼詳しく知りたい方はこちら  
IKE・SUNPARK としまどりの防災公園 ―官民連携によるフェーズフリーな公園整備と人、モノ、公園、まちを育てる仕組みづくり―  
[https://youtu.be/kykdsRZ\\_Uvc](https://youtu.be/kykdsRZ_Uvc)

# 安全・安心なまちづくり

## 災害に強いまちづくり

### 防災公園の整備

地方公共団体の要請を受けて、都市部における工場跡地などの大規模な土地利用転換の機会を捉えて、災害時の避難場所となる防災公園の整備を市街地の整備と併せて進めています。

防災公園は、平常時においては近隣の住民の方々に親しまれるように、レクリエーションの場としてもさまざまな工夫をしており、地域の快適性の向上や健康・福祉にも寄与しています。



適応策

### CASE STUDY

適応策

#### 市街地における避難地不足や災害脆弱性に対応する防災公園の整備

横浜市鶴見区は市内でも公園が少なく、緑の保全・創造に寄与できる公園・緑地の整備が求められているとともに、市街地における避難地不足、急峻な地形による災害への脆弱性等防災上の課題も抱えていました。

そこで、UR都市機構は横浜市と連携し、災害に強いまちづくりの推進のため、防災公園街区整備事業にて公園整備を進め、2021年11月、花月園競輪場施設の跡地に鶴見花月園公園が開園しました。

園内にはマンホールトイレやかまどベンチ、テントとして活用で

きるパーゴラなどの防災施設を整備し、災害時の広域避難場所としての機能を担うとともに、地域にお住まいの方々の声を取り入れた公園づくりを目指し、パイブリッジやランドマークタワーなどを見渡すことのできる展望台や、ゾウさんスライダーなどの充実した遊具、ストレッチやトレーニングもできる大人用健康器具、1周400mの広さを誇る大原っぱなどを備えた、子どもからお年寄りまで多世代が楽しめる憩いの場となっています。今後も地域の防災性の課題に対応できる、災害に強いまちづくりを推進していきます。



大原っぱ (西武造園(株)提供)



公園利用者の様子



エントランス



解説板

▼ 詳しく知りたい方はこちら  

 鶴見花月園公園 防災公園街区整備事業 (神奈川県横浜市)  
[https://www.ur-net.go.jp/aboutus/publication/web-urpress68/town\\_saizensen2.html](https://www.ur-net.go.jp/aboutus/publication/web-urpress68/town_saizensen2.html)

### 雨水流出抑制施設の整備

2021年度は地下水かん養を図る透水性舗装等の雨水流出抑制施設を8地区で整備し、下水道や河川への集中的な雨水の流入を抑え、都市型水害等、災害の防止に寄与しています。昭島つつじが丘ハイツ(東京都昭島市)では、30年以上にわたって調査を行い雨水流出抑制効果が維持されていることを確認しています。



雨水浸透工法の概要

### CASE STUDY

適応策

#### 草加松原団地D街区における雨水流出抑制策

草加松原団地再生事業にて、埼玉県草加市とUR都市機構の共同事業として、大規模雨水貯留施設(約10,000t)の整備を行いました。

草加松原団地は地盤高が低く、周辺を流れる伝右川・綾瀬川は大雨時に増水し、道路冠水や団地内浸水などの内水氾濫が発生していました。

これまで、行政による綾瀬川から中川への放水路の整備や内水を伝右川に排出するポンプ場の整備、UR都市機構の団地再生事業による開発基準上必要な雨水貯留施設の整備等を行ってきました。今回、草加松原団地D街区(コンフォール松原は別街区)において、草加市とUR都市機構が連携することで、①大規模雨水貯留施設を1箇所に集約して整備することによる大街区全体の有効的な将来土地利用計画、②UR都市機構による基盤整備工事(従前建物除却・道路・下水道工事)と一体的に施工することによる、スケジュール、事業費両面での効率的な整備、③草加市が周辺の市管理ポンプ場等と一体で管理を行うことによる、効果的な浸水対策の運用が実現することとなりました。今後の団地再生事業においても、地域のニーズに合わせて、防災性・利便性を向上させる基盤整備の実現を図っていきます。



団地建設当時の状況(1962年頃)



貯留槽躯体施工状況



冠水時の草加松原団地



建替後団地全景

